

# メロー

登録番号：第2461号

登録年月日：平成2年11月20日

登録者：青森県(青森市長島1-1-1) 来

育成者：鈴木長蔵 石山正行  
北山 弘 佐藤 耕

中村喜治 石沢 清

山田三智穂

歴：「ゴールデンデリシャス×  
印度」と「印度」の交雑実生

## 特 性

### ■栽培特性および栽培上の留意点

樹性は「ゴールデン」に似ており、樹勢は中程度である。側枝は出やすく、目傷やピーエー剤による処理をほとんど必要としない。むしろ側枝を適宜間引きしないと枝が混みすぎて日光の透過量が少なく、地色があがらず品質が低下する。側枝は直立気味に出るが結実し始めるとやや開張性となる。また、短果枝や中果枝がつきやすく、特に中果枝に高品質のものが生産されるため、しょうが芽の整理、先刈りにより中果枝の確保に努める。開花時期は「ふじ」とほぼ同じで、主要品種との間では交雑和合性が認められる。青森県での収穫時期は10月下旬から11月上旬で「王林」よりも少し早めである。収穫のめやすは地色が黄色になってからで、黄色の果実のほうが緑黄色果より貯蔵力がある。裂果、心かび、収穫前落果などはほとんどみられない。唯一の欠点はつるさびの発生である。しかし、多くが果梗のまわりにわずかに発生する程度である。袋を掛けても発生を抑えることはできない。早期結実性で、結実が良好なため、成らせ過ぎる傾向があり、隔年結果に陥りやすいので注意を要する。摘果の強さは「つがる」と同様3～4頂芽に1果とする。

### ■果実特性

果実は300g前後で、果形は長円ないし円形である。果色は黄色で陽向面がわずかに淡い紅色に着色する。果梗のまわりにさびが出やすい。果肉は黄白色で、やや緻密、果汁が多く、硬さは中程度である。酸度(滴定酸度)は0.4%、糖度(屈折計示度)は15%前後で甘く、食味はきわめて良好である。貯蔵中にメロンのような甘い香りを生ずる。貯蔵果の酸度が0.2%まで下がると食味が落ちるので冷蔵による貯蔵は3月末頃が限度と考えたほうが安全である。なお、収穫が遅れると樹上においても、また、貯蔵中にも油のあがることがある。特に淡く紅色に着色した面に出やすい。適期収穫に努めることが大事である。

### ■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対する抵抗性は「王林」より強いが「ふじ」よりはやや弱く、黒星病には「ふじ」と同程度のり病性を示す。

### ■地域適応性

青森県では試作品種に位置づけているが、苗木はあまり出回っていないようである。以前、県内の12カ所の園地で実施した委託試験によれば、初成りおよび2年目までの成績で地域によって食味にばらつきが認められた。県外の公立試験場では平成4年に結果し始めており、地域適応性等は継続して検討されることになる。「メロー」は収穫時期がほぼ同じ黄色系の「王林」とよく対比され、「メロー」の食い込む余地は少ないとされるが、本種の最大の特徴である早期結実性、栽培管理の容易さ、食味の良さ、貯蔵果の高芳香性などによって新規の需要を喚起し得る品種として普及に努めている。

(佐藤 耕)